

狭い家の鴨と蛇

作／角ひろみ

「あらすじ」

そう遠くない未来。ゲリラ豪雨ばかりでもうさほどゲリラでもない。

西の地方の山の方。土砂崩れで川が決壊した集落は解散。

もう誰も住まない。父さんと僕以外は――。

狭い家。というか半分しか残ってない僕の家。

母さんは泥にさらわれて見つからない。

父さんは職と文明と世を捨てた。

僕は麓の高校に通っている。生まれて初めて彼女ができていている。

もうすぐ夏休み。

父さんが軒先で何かの卵を見つけた――。

父さんと一家の団欒と喪失と抵抗と、変幻のお話。

高2の僕が学ぶ退屈な『方丈記』とともにすすむ無常の節電ファンタジー

方丈記から想起された現代劇を創作し上演するという企画（方丈記プロジェクト）のために書き下ろしたもの。

母

先生

婦人会長

自治会長

郵便配達

母の妹

向

僕

父

「登場人物」

浮島のように置かれた台。

広さはわずかに方丈。(一丈四方)

台上にはダンボールが三個くらい。それだけ。

そこが僕の家。

本作は、この方丈に人が居たり行き過ぎたりしながら進みたい。とりとめもなく。

① 先生と向と僕 1

僕が歩いてくる。

僕、台上へ立つ。

僕、高校の夏服。

川の流れを見ている。

僕、ひとり小さく、

僕 流されとる。

濁流。

先生と女子高生(向)が台上へ。

濁流、行き過ぎる。

先生 はいそれでは前田くん、ここを読んでくださいー。

先生、空を指す。

向、ダンボールに座る。

僕、指された空を見上げてぼそぼそと、

僕 ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

先生 どういう意味かわかりますかー？

僕 わかりません。

先生 即答じゃなくて考えて。

僕 考えてもわかりません。

先生 あきらめないで。

僕 あきらめたりとかしてません。

先生 ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

先生、さっきの空を縦線にゆつくりと指しながら、

先生 流れる川は絶えることなく、しかも、今見ている水は、もとの水と同じでは

ない。

僕 そのまんまじゃが。(ひとり小さく)

先生、僕から空を横線にゆつくりと指しながら、

先生 流れていく時間は止まらない。しかも、今見ている景色は、一秒前に見た景色と

は同じではない。

僕 当たり前じゃが。(ひとり小さく)

話の中で父が台上へ。

父、貧相な服。よれたタンクトップに短パンのような。

父、座る。台上の床。

父、ダンボールを開け、白ごはんの入った茶碗2膳と箸2膳を取り出して別のダンボールの上に置いていく。淡々と。

先生 続き読んで、前田くん。(また空を指して)

僕 よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。

世の中にある、人と栖すまと、またかくのごとし。

父 ほら。

父、ポケットから卵を一つ取り出して、僕に差し出す。

僕、床に座る。

先生と向、台下へ。

朝。僕と父、卵を見ている。

暫く。

② 父と僕 1

僕 …… 食えん。

父 …… 何で。

僕 食うたら終わる。

父 終わるって。

僕 何か人として終わりの気がする。

父 終わりとか大げさな。

僕と父、言い争うでもなく淡々と。

僕 どこで拾おたん。

父 草んどこ。

僕 草。

父 川の土手の草。オカンのつかかけがあつたとこの草。

僕 埋もれとつた。

僕 無理。

父 平気平気。

僕 見たことねえ感じじゃし。

父 どこが。よう見かける感じじゃが。

僕 見かけんわ。生まれて一度も見たことねーわ。

父 マルナカで売りよーろう。

僕 売りよーるわけねーが。どこのマルナカ。

父 麓降りたマルナカ。

僕 嘘つけ。

父 マルナカ全店舗で売りよーろうが。

僕 嘘ばあ。何の卵。

父 鳥。

僕 鳥なわけねかろう。なんか卵が小せえが。

父 小柄な鳥。

僕 それ鶏じゃねーが。しかも色おかしゅーねー？

父 どころ。おかしゅーねーが。
僕 緑っぽいが。
父 あーまー緑っちゃー緑か？
僕 無理無理無理。
父 平気平気平気平気。拾いたてじゃし。
僕 拾いたてでも産みたてとは限らんし。
父 昨日の晩にはねかったし。じゃけ今朝産みたてじゃろ。
僕 常温じゃし。保存状態常温じゃし。
父 それが。
僕 このくそ暑^{あち}いーの外で常温保存で腐るわ。当たるわ。腹壊すわ。
父 でもマルナカの卵だつて常温保存じゃが。
僕 もうマルナカえーわ。もうえーわ、このまま白めしで食うけえ。(箸を取る)
父 せっかく卵ゲットしたのに。
僕 ゲットで隠しアイテムか。
父 隠しアイテムじゃろう。卵めしのが白めしより格段にパワーアップするけえよ。
僕 ほなオトンだけ食やーえーが。
父 いやいや半分ずつすりやえーが。それでトントンじゃが。
僕 ファイファイファイファイが。
僕 当たる確率みてえに言うなーよん。
父 おめえチャレンジ精神ねーんか。
僕 いらんわそんな無駄なチャレンジ。
父 男じゃねーなー。
僕 (箸を置く) 空しいわ。拾うたもん食うとか。人として終わる。
父 それが何。
僕 終わるーいうか、終わつとるけえよ。もう。
僕 …え。
父 おめえ気づいとらんかったん。
僕 気づきとうねかった。
父 拾うかもらうか以外にもう食うもんねーけえよ。
僕 仕事すりやあえーが。
父 仕事終わった。
僕 終わったーゆうて無断で行きよーらんのじゃが。あれ以来。

父
終了からのチャレンジじゃけえよ。
はいどーぞ。

父、淡々と言って、僕に卵を差し出す。
間。

僕、卵を手を取って、

僕
お椀。

父
茶碗でえーが。

僕
卵割る受け皿がいる。

お椀で割って、半々に分ける。お椀。(手を出す)

父、面倒くさそうに段ボールを開けて探す。

父
ねーわお椀。

オカンが卵かけごはんの時出しよーたんがあるう。小せえ。ちようどえーぐれ
えの。

父
あー、(探す)

僕、その間に、立ち上がって台の端へ。

父
ねーけえこれで、(茶碗を差し出す。母の)

僕、外へ卵をポイと投げる。

父
あ。

僕
ん？

父
何すんなおめえ。

僕
事故。

父
は。

僕
卵が川に落ちた。

父
：何てこと言よーんなおめえ。(台下へ)

先生 続き読んで、前田くん。(台上へ)

③ 先生と向と僕 2

僕 よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。
世の中にある、人と栖と、またかくのごとし。

先生 よどみというのは、水が流れずにとどまっている所のことです。

向 ね、前田くん。見て見て、雲。

僕 へ。

先生 うたかたというのは、水の泡のことです。

向 流れて来よーる、黒い雲。すごい早え。

僕 あー。

僕と向、窓の向こうを見ている。

先生 よどみに浮かぶ水の泡は、一方では消えて、また一方では生まれて、いつまでも
同じ形でとどまっていることなどない。

向 また来よーる。

僕 え。

向 ほら、蟬が泣きやんだ。

先生 世の中に存在する人も、住みかも、また水の泡と同じようなものである。

向 雨じゃ。

いきなり雨。激しく。

向 ほら来た。

先生 窓閉めてくださいー。

向 ゲリラじゃね。また。

僕 うん。(雨を見ている)

向 ていうかもうゲリラ豪雨とか言わんよね。こんな日本中どこでもしよつちゅう降
りよーたら。

僕 あー、うん。

先生 窓窓、向さん窓閉めて。

向、立って窓へ。雨を見ている。

向 先生、水がみるみるたまつてきよーります、運動場。

先生 ですなー。

向 川になりよーる。すごい早えー。
早えですなー。

僕 …。(早い川を見ている)

向、窓を閉める。

先生 えー、作者鴨長明は、流れる川の水が二度と戻らないのを見て、この世の無常を

強く感じて、この「方丈記」冒頭の文を書いたと言われています。

「無常」というのは仏教の思想で「この世の全ての存在は、常に変化してしま
う」という、

僕 事故。

父 は。(台上へ)

先生と向、台下へ。

④ 父と僕 2

僕 卵が川に落ちた。

父 …何てこと言よーんなおめえ。

僕 何が。

父 罰ばちが当たたらあ。

僕 何の罰？ もう当たつとるが。

父 取ってけえ。川降りて。

僕、外の下を見て、

僕 もう見えん。すげー下。流れに飲まれてどっか行ってしまおうた。
父 ……何なそれ。
僕 卵かけごはん、今頃オカンが食うとろう。

父、茶碗を持つ手を振り上げる。
僕、冷ややかにそれを見ている。

先生 えー、作者鴨長明は、流れる川の水が二度と戻らないのを見て、この世の無常を強く感じて、この「方丈記」冒頭の文を書いたと言われています。

僕 「無常」というのは仏教の思想で「この世の全ての存在は、常に変化してしまおう」という、
無常じゃってよ。(父に)

父、手を降ろし、茶碗を段ボールの上に置く。母の茶碗のあるべき席に。
僕、それを見ている。
父、自分の茶碗を取り、白ごはんを食べる。
僕、食わずに台を降りる。
そこに向がいる。

向 前田くん。

大雨。

⑤ 向と僕 1

僕 あ。

向 ね、前田くん、今日傘持つとる？

僕 え、や、ねーけど。

向 いつも持つとらんよね。

僕 え、いつも？

向 知つとるよ。うち見よーたけえ。

僕 え、え、見よーたって？！

向 前田くん、今日一緒に帰らん？
僕 え、は！？ 一緒！？
向 補修、ふたりだけじゃったし。
僕 じゃけど、
向 うち傘持つとるし。
僕 え、え、向さん、傘って二つ？
向 一つ。

沈黙。長め。

父、立ち上がって台下へ。

僕 えーっと、
向 じゃけ一緒に帰ろ。
僕 や、じゃけて、僕の家すげー山の方じゃし。向さんの家町の方じゃねーん。
向 別にええよ。送るよ。

父、台から離れたところへ歩いていく。雨に濡れながら。

僕 ええけえええけえ。
向 遠慮せんで。
僕 ホントええけえ。困るけえ。
向 困る？
僕 や、遠いとけえ。
向 気い遣わんで。うちは全然困らんよ。

父、何かをそっと拾って、シャツの裾にくるむ。

その傍に赤い傘をさした女が歩いて出る。

向 うち、前田くんの家、行ってみてえし。
僕 は！？ 僕の家！？ なんで！？
向 帰ろ。
僕 ごめん！ 無理！

豪雨。

僕、走って去る。

父と赤い傘の女、台へと歩く。

残された向、きゆうっとひとつ息を吸って、

向

ゆく河の流れは絶えずしてしかもその水にあらず。

ゆく河の流れは絶えずしてしかもその水にあらず。

ゆく河の流れは絶えずして

母の妹

そんなん困ります。(傘をたたみながら)

向、僕の去った方へ走る。

⑥ 母の妹と父 1

母の妹

はい言うてください早う。^{はよ}

女(母の妹)、高島屋の薔薇の紙袋を持っている。小ぎれいで上品な服。濡れたままの父、シャツの裾から中身を取り出す。卵二つ。

母の妹

早う。^{はよ}

父、ていねいに卵をダンボールの上に置く。

母の妹

何しよーるんですか。

父

卵を置いとります。

母の妹

卵…？ いや卵の話じゃなくて。何ぐずぐずしよーんですかーゆう話です。

父

あー。

朝の茶碗が置いたまま。

父、母の茶碗の中に一つ卵を置く。

母の妹、それを見ながら台上へ上がって、卵の横に高島屋の紙袋を置く。

父 咲子ちゃん。高島屋もういらんけえ。

母の妹 いらん言うても煮炊きもできんし困るでしょう。

父 もう毎日こんなんええけえ。(紙袋を母の妹の方へ戻して)

母の妹 ええ言うても私(すぐく即座に紙袋をさし戻して) 毎日来ます。

来んでくれー言われても来ます。

義兄さんはい言うてくれにやー片付かんです。先へ進めんです。

母の妹、紙袋から手を離す。

父、そのへんのダンボールからタオルを取って、母の妹に差し出す。

父 はい。

母の妹 …え。

父 使うたら、拭くのに。

母の妹 そんなんいらんです。私傘さしてきたんで濡れとらんけえ。

父 でも脚泥泥。

母の妹 …ああ、(見られているのを見て) ホンマ泥泥。

母の妹、タオルを受け取って座り、ちよつと脚を拭く。

父 道が悪なつてしもうたけえな。でえーれー汚れる。

父、段ボールから別のタオルを取って、立ったまま、自分の髪や顔や身体を拭く。

タオルを持って余しながら母の妹、拭いている父を見ている。

母の妹 川行きよーたんですか、また。

父 あーまー。

母の妹 こんな大雨ん中えらい濡れて。

父 なー。でえーれーやられた。(拭きながら。以降も)

母の妹 行つたつて無駄のに。

父 や、違うんよ、すげーんで。川原に卵がな、

母の妹 卵どうでもええですけえ。

父 あーはい。

母の妹 ちようどふた月です。今日であれから。

父 あーふた月。早えのうー。^{はえ}

母の妹 いつまでも帰るところがないんは、姉が浮かばれんです。

父 あるが。こけー、帰るところ、

母の妹 帰ってこれんでしよう。こんな家じゃあ。

父 こんな家？ あーまー半分流されとるしなー。(へらへらと)

母の妹 笑よーる場合ですか。

父 ちやーんとしたげんと、姉もさまようとするまんまです。

母の妹 ちやーんとしよーるけえ。(へらへらと)

父 しよーらんやないですか。

母の妹 しよーるしよーる。

父 何ーんもしよーらん人こそ言うんですよ。しよーるしよーるって。

母の妹 へー。(拭いたタオルをそこらのダンボールに投げ入れる)

父 待ちよーても戻らんのに、ふた月。

母の妹 まー。

父 もう川の搜索も打ち切られました。

母の妹 なー。

父 ちやーんと死亡届け出してください。

母の妹 …。

父 はい言うてください。

母の妹 …。

父 ちやーんと葬式を出してください。

母の妹 …。

父 はい言うてくださいよ。

母の妹 …。

父 何で！

母の妹、持っていたタオルを父に投げつける。

僕 何で！？

僕の後を向が走ってきて台上へ。

向
ハイ。

向、薄ピンクの傘を差し出す。

僕
や、向さん、

向
うち、あつこからバスじゃけえ！

向、僕に傘をポイと投げて、台下へ降りて走り去る。

僕
え、ちよ、向さん！

僕、傘を手に走って追う。

父、タオルを拾う。

父
おー。

父、タオルを首にかけて、机代わりのダンボールの前に座る。

父
ちようどよかった。暑うて汗が止まらない。

母の妹
何だよ。

父、首のタオルで顔の汗を拭いて、

父
な、咲子ちゃん。

母の妹
はい。

父、卵を手取る。

父　　これ、

　　咲子の耳元に。

父　　何か聞こえる？（卵を振る）

母の妹　　：え。

父　　卵が生きとつたらな、中身がゆれんけえ、何ーんも音がせんのだやって。

卵が死んで古うなつとつたらな、空洞ができて、中身がゆれて、

音がすんじやって。

　　父、咲子の耳元で卵を振る。

父　　音する？

母の妹　　義兄さん、

　　咲子、卵ごと父の手を握って止める。

　　僕、歩いて引き返してくる。薄ピンクの傘をさして。

僕　　よどみに浮ぶうたかたはかつ消えかつ結びて久しくとどまりたる例なし。

かつ消えかつ結びてかつ消えかつ結びてかつ消えかつ結びて

母の妹　　じゃけ卵はもう、どうでもええですつてば！（握ったまま小さく強く）

　　ねえ義兄さん、

　　僕、少し離れて、台上の家を見て立っている。

父　　何。

母の妹　　あなたやましいんでしよう。あんどきのこと。

じゃけえいつまでも姉を待ちよーんでしよう。

父　　咲子ちゃん。（手を引いて離そうと）

母の妹　　はい。（離さない）

父　　やましいんはあんたじゃろう。

じゃけえ早う片付けようとしょーんじやろう。

僕、家の前へと歩く。

僕

世の中にある人と栖とまたかくのごとし。

人と栖と人と栖と人と人と人と

僕の前に黒い傘をさした人がたくさん歩いてきて、台上へ。

⑦ 解散式 1

自治会長 (拡声器を手に)

えーみなさん、本日はー、当集落の解散式においで下さいまして、ありがとうございます。自治会長を務めておりました牛島です。(礼)

薄ピンクの傘をさした僕、台下に取り残されて立っている。

母の妹、手と卵を握ったまま父を見ている。

自治会長

えーここにはー、8世帯16人が暮らしよりました。

しかし、去る5月11日の夕方から晩にかけて、これまで経験したことのない局地的豪雨によって、東側の山が崩れ落ち、川がせき止められて土砂ダムができ、それが決壊して、この地を襲いました。

濁流は、私らーの家や車や集会所を押し流して、集落を分断しました。

古くからこけーあった祠ほくらものうりました。

祠ほくらの中には蛇身じやしん弁財天べんざいてんいうて、頭が弁天さまで、身体はどぐろを巻いた蛇の、小せえ石の像がまつられておりました。

私らーは昔っから、ただ神さん神さんとだけ呼びよりました。

その神さんも流されて、もうこの地にはおられません。

星と蛍の美しかった故郷こきょうは一瞬で変わり果てました。

そして、住民の一人である前田品子しなこさんが安否不明のまま、未だ発見されておられません。

母の妹、手を離す。

母の妹 音、しょーりました。ちゃぷんちゃぷん言よーりました。

もう死んどります。古うなつとる。

父 嘘ばあ。

自治会長 こういう事態で集落を解散するーいうんは一番さびしいですが、山道もライフラインも断絶され、居住困難区域となった今、避けられないこととなってしまいました。

父、自分の耳元で卵を振る。

父 音やこせんが、なーんも。

生きとるが。ちゃーんと。

父、元の場所に卵を置く。

自治会長 被災したわれわれ住民は、それぞれの親せきの家に世話んなりながら連絡を取り合^おうて、せめて最後に解散式をしてみんなで別れようと決めました。

母の妹、立ち上がる。

母の妹 義兄さん、なんかこの家、変なおいします。

父 何のにおい？

母の妹 腐った獣みたいな。

父 …。(嗅ぐ)

母の妹、赤い傘をさして、

母の妹 ちゃーんと片付けんと。

母の妹、歩いていく。

黒い傘の人らの中の先生と向、僕に、

先生 続き読んでー、前田くん。

僕 朝あしたに死に、夕ゆふべに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。

先生 一方では朝死ぬ人がいて、また一方では夕方に生まれる人がいるような人間界のいとなみは、ただただ水の泡に似ている。

自治会長 今日はいにくの小雨となつてしまいましたがー、この地にゆかりのあつた多くの方々がこんなにようけー解散式に足を運んでくださったこと、大変うれしく思います。せめてひと時、集落の風景をしのびつつ、和やかな時をお過ごしください。(礼。人らの拍手)

父 やっちもねー。

父、首のタオルをダンボールにポイと入れて、ゴロリと横になる。

向 知らず、生まれ死ぬる人、何方いづかたより来たりて、何方いづかたへか去る。

先生 前田くんー、訳して。

僕 わかりません。

先生 即答じゃなくて考えて。

僕 考えてもわかりません。

先生 わかるでしょう。そのまんまですよ前田くん。

僕 私にはわからない、生まれて死ぬ人は、どこから来て、どこへ去つていくのか。

向 また知らず、仮の宿り、誰たが為にか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。

先生 そう、知るものはないのだ。

この世は仮の住まい、誰の為に心を悩ませ、何を望んで人目を楽しませるようなことをするのか。

向 その主と栖すまと、無常を争ふさま、いはば朝顔の露に異ならず。

僕 人と住み家かとが、お互いに無常を争つてはかなく滅んでいくさまは、いわば咲いた朝顔と、その花の上の露の関係にそっくりだ。

婦人会長 (拡声器を受け取つて) ハイ、自治会長に代わりましてー婦人会長を務めておりました藤沢アヤノです。通称アヤちゃんです。

えー、あちらのテントの方にー、婦人会より心ばかりの料理を用意しております！ えー、こちらあでは毎年7月の最後の土曜には、住民総出で神さんの例祭を行っていました。例祭では昔っからの恒例で、赤飯のおにぎりがふるまわれとりました。私らー婦人会の皆みなは、朝早うから集会所に寄り合つて、

たくさんのおにぎりを握りました。

まだ7月には早えし、今日は赤飯いうわけにはいかないですが、恒例になら
って私わたしアヤちゃんが、大量のおにぎりを握ってまいりましたー！

ちなみに、お煮しめは梅野さんより提供していただきましたー！

串揚げは泉さん、焼鳥は林さん、肉じゃがはー牛島さん、

いももちもー牛島さん、コロッケもー牛島さん、牛島さん芋ばあですね、ポテ
トサラダもー、

僕、話の中で、人らを振り切るように家へ。

僕
もうええって！ しつけーな。

僕、薄ピンクの傘をたたみながら。

黒い傘の人ら、台下へ降りて、僕の向こうに歩いて去る。

⑧ 父と僕 3

父
何。帰るなり何怒りよーんな。

父、横になったまま。夕暮。

僕
それー。(傘で卵を指す)。

父
おー、気づいた？

僕
気づかー、でえれー目に入ってくるわ。

父
すげーじゃろ、また見つけたんよ。川の草んどこ。

僕
しつけーよん。

父
今度はもつと家に近ちかえとこ。

僕
しかも2個。

父
今回はイチイチじゃけえよ。(僕と自分を指して)

僕
イチイチとか全然うれしねーし。

父
絶ぜつつ対食ていしょくわんけえよ。(傘を立て掛けて台上にあがろうとする)
待て待て待て。(半身起こして)

僕 は。

父 そっちのがでえれー目に入ってくんじゃけど。

僕 何が。

父 何がって傘ー（指す）、違和感が激しいんじゃけど。

僕 うるせー。（傘を置いて部屋にあがる）

父 わざとか、わざと見せびらかしか。

僕 違うわ。

父 彼女できましたアピールか。

僕 彼女やおらんし。

父 けど思いつきり女子のんじゃが。

僕 ただのクラスの女子。

父 女子と一緒に帰りよーんかおめえ。

僕 帰りよーらんわ、向こうバスじゃし。

父 向こうってー。

僕 違うしホンマ、無理やり貸してきたんじゃし、ただの痛い女子じゃし。

父 おめえただで誰も何もして^{なん}くれんでー。

僕 何なんそれ。

父 やー、何ーんか気持ちが含まれとんじゃねーん？

僕 何なんいちいち！

父 別にー。

僕 あーー、部屋行きてー。

父 部屋おるがー。

僕 自分の部屋行きてー。

父 自分の部屋流されてしもうたし、しゃーねーがー。（ヘラヘラと）

僕 しゃーねーしゃーねーってオトンはそればあじゃが！

父 まーまーそうカリカリせんと、ま座って食おうや、卵かけごはんでも。

僕 じゃけ食えるかーよん！

父 あーー！

僕、卵を2つとも掴んで、外へ投げる。

僕 ハイ終了。（座る）

父 何でまた捨てるんなら。

僕 何べんでも捨てらあ。

父 ひでーことするのう。

僕 どっちがひでーんな。

父 化けて出らあ。

僕 何が？ 誰が？

父 えっとー、卵の中身が？

僕 化けまあ。出まあ。意味わからん。食う方がひでーが。

父 食われもせんし生まれもできん卵やこ一番ひでーが。

僕 じゃ拾うてくんなーよん。

父 じゃけど食うもんねーし、

僕 これ食やーえーが。咲子おばちゃんの。

高島屋の紙袋を手元に寄せる。

僕 食やーえーが。オトンも。

父 …いらん。それは。

僕 何なん、咲子おばちゃんが毎日わざわざ町から買うて来てくれよーんのに。

僕 いっぺんも食わんで。

父 毎日揚げもんじゃし。重てーわ。

僕 たまーにサラダの時もあらあ。

僕、紙袋を開けて中身を取り出す。

透明の折にカラアゲが入っている。

僕 …カラアゲ。

父 ほら重てー。やっぱり。

僕 なー言うたろうー、絶つ対^て咲子おばちゃんは、

僕 …何これ。

僕、紙袋の底からもう一つ取り出す。

僕 まだ何か入ってるで。

また高島屋の紙袋にくるまれた何か。

父 え、ダブルで揚げもんか。

僕、紙袋をちよつと開ける。ちよつと中身を手に取る。

僕・父 ……何で。

僕、またすぐ紙袋を閉じて包む。

僕 何これ。

父 知らん。

僕 知らんて大金で。2束で。

父 イチイチじゃが。(僕と自分を指して)

僕 何言うとなん。

はい。

僕、包みを父に差し出す。

間。

父 無理。

僕 いやいや。

僕、包みを父の手元に突き付ける。

父 無理無理無理。

僕 いやいやいや。

誰もただで何もしてくれんで。

じゃけよけー無理。

僕 何ーんか気持ちが含まれとんじゃねーん。

父 気持ち。

僕 咲子おばちゃんのもの。

僕、包みを爆弾のようにポイと父の手元へ。

父、包みを手にしたまま、

父 ……重てー。

郵便配達 すいませーん。

郵便配達が台下へ歩いてくる。

⑨ 郵便配達と父 1

父 あ、

郵便配達 遅くにすいませーん。郵便です。

父、包みを僕にポイと投げて、

父 おー、こいちゃん。ホンマ遅え^{おせ}なー、今日は。

郵便配達、合羽の下半身は泥にまみれている。

郵便配達 すいませーん、大雨であちこち遅れちゃって。

父 やーまー別にえーけど。止んどるが。(空を見上げて)

郵便配達 ねー。嘘みたいに。

ここ登ってくる途中まで、ぶちまけたみたいに降ってたんですけど。

父 じゃなー。

僕、包みを父にポイと投げ返す。

僕、透明パックをバリバリと開けて、カラアゲと白ごはんを食べる。

郵便配達 あそうだ前田さん、昨日ホントどうもありがとうございました。

父 あー別にえーよ、全然。

郵便配達 すーごい助かっちゃいました。

父 うちにあってもどうせ使わんし。

父、そのへんのダンボールに包みをポイと入れる。

郵便配達、雨よけの袋から、ゆうパックを取り出しながら、

郵便配達 やー自分こつち来てもう3ヶ月になるんですけど、ちょっとまだ全然家電とか

揃ってなくて、すーごいボロアパートだし、さすがに扇風機くらいは買わない
とこの夏死ぬなーとか思ってたところなんですよ。

父 死ななすんだが。

郵便配達 いやまー死なないですけど。

父 他にもいるもんあつたら持っていかれー。どつちみち捨てるもんじゃし。

郵便配達 ああ、どうもホント、すいませんー。

僕、カラアゲをもそもそと食べながら、不服そうに見ている。

郵便配達、ゆうパックの向きを変えて、

郵便配達 (伝票読んで) えーつとはい、前田佑^{ゆう}さん宛ですね。

父 珍しいのう。わしにゆうパックやこー。

郵便配達 (伝票読んで) えーB Z P A R T Yさんからです。

父 …え、B Z？

(B Z↓なんか架空のグループにしてもいいです！)

郵便配達、父にボールペンを渡す。

父 (受け取りながら) 今ちよつと笑つたら。

郵便配達 いえ。

父 絶対^{ぜってえ}ちよつと鼻で笑つた。

郵便配達 いえいえ笑つてないです。

父 B Z P A R T Y。

郵便配達 B Zのファンクラブですよ。

父 や、こいちゃん、言うとかけどわしじゃねーけえよ。

郵便配達 B Z P A R T Y ?

父 入ったんは嫁じゃけえよ。

郵便配達 …え、あれ、…奥さん？

父 なんか恥ずかしいやら言うて勝手にわしの名前で入ってから。

郵便配達 え、でも…、前田さん、

父 いやホンマに。

郵便配達 や、でもだって…、奥さんは…、

父 あー、いつ頼んどったんじやる。前に頼んどったんかのう。

郵便配達 …ですかねー。

父 何じゃろ中身。

郵便配達 品名、グッズとだけ書いてありますね。

父 グッズ？ 何じゃそれ。やつちもねー。 (つぶやきながら、サインする)

父、ボールペンとゆうパックを渡す。

父 はい。

郵便配達、伝票を切って、ゆうパックを渡す。

郵便配達 あのー、やつちもねーってどういう意味ですか？

父 え意味？

郵便配達 や、こつちの人わりと言うなーって。

父 つっしょーもねー。

郵便配達 あー、そっかそっかー、はい、ありがとうございます。じゃどうもー、

父 あ、のうーこいちゃん。

郵便配達 はい？

父 この家、なんかにおいする？

郵便配達 え、におい？

父 臭え？

郵便配達 や、そんな、別に。

父 そっか。

郵便配達 まーそれぞれの家において微妙にありますよね。

自分いろんな家に行くんで。

父 あーじゃなー。そっかそっか。ありがとうーこいちゃん。

郵便配達 え、あ、はい、じゃ失礼しまーす。

父 おうー。

郵便配達、歩いていく。

僕 何な、友達？

父 は？

僕 こいちゃんとかゆうて友達？

父 全然。よう来よーるだけ。

僕 配達に来よーるだけじゃろ。

父 まー。

僕 扇風機あげたん。

父 あー、もういらんけえ。

僕 いろーう。

父 いらまー。電気もこんのに。

僕 いろーうがー。電気また通つたら使うじゃろ。

父 通らまー。もう解散集落なのに。

僕 じゃ次の家で使うじゃろ。

父 何な。次の家とか予定ねーし。

僕 何で。

父 もういらん。あんなもんやこいらん。

父 捨てたんじゃ。扇風機は。

父、ビリビリとゆうパックを開ける。

僕 こっちが死ぬわ。

父 は。

僕 暑うて死ぬ。

父、ゆうパックの袋から、ビニールパックに入ったTシャツを取り出す。

父 先行予約販売。BZファンクラブ限定、ツアーTシャツ。

…2着。

何じやアイツ、やっちもねー。

つぶやいて、そこらのダンボールにポイと投げ入れる。

すると、BZTシャツを着た女(母)が、歩いて出てくる。

僕、向の傘を持って台下へ。

僕 知らず、生まれ死ぬる人何方より来たりて何方へか去る。

何方より来たりて何方へか去る。

母、僕の隣を通り過ぎて、台上の家へ。

⑩ 向と僕 2

母、僕の箸を取り、マイクに代わりにして口ずさむ。

向、紺の傘を手に、僕の前へ。

母 ♪例えばー どうかしてー 君の中ー a hー 入って行ってー

父 予、ものの心を知れりしより、四十あまりの春秋よそぢをおくれる間に世の不思議を見る事、ややたびくになりぬ。

(歌、BZの「今夜月の見える丘に」のイメージですが、何か、それっぽい架空の歌を作ってもらってもいいです！)

歌の中で、

僕、薄ピンクの傘を差し出す。

僕 傘。ありがとう。

向 ハイ。

向、紺の傘を差し出す。

台上的父、僕の食べたカラアゲのパックやみんなの茶碗をダンボールの中に片付けている。母をそこに見ながら。

僕 え、

向 あげる。

僕 や、ええよ、

向 気にせんで。家にあつた古いもんじゃけえ。

僕 でも、

向 交換。

向と僕、傘を交換する。

父、片付け終えても、母をそこに見ている。

僕 え、あれ、交換って。(少し笑って)

向 あれ、まー変じゃけど。(少し笑って)

前田くん。

僕 うん。

向 うちな、見よーたんよ。

僕 何。

向 2か月前。あのゲリラの夕方。電気屋におつたら。

僕 え。

向 ケーズデンキ。

僕 おつた。

向 うちもおつたんよ。雨が激しすぎて帰れんで。ザーーつと。

僕 あー、そうなん。同じじゃったんじゃ。

向 同じ、うん。

僕 全く気づかんかったわー。

向 前田くん、うちの前を普通にスルーして行った。

僕 ごめん、全然何ーんも考えとらんかった。

向 うち、まさかあんなことなつととは思ひもよらんかった。

僕 あんなこと。

向 前田くんの家らへん。

あんどき、うちらがケーズデンキにおる間に。

母 ♪今夜僕はー寝なーいよー

母、一番を歌い終えて、歩いて去る。

父、またゴロリと横になる。

僕 もで。全然思いもよらんかった。帰ってから知ったんよ。

意味なく長つげえーことケーズデンキにおってから。

よなー。

向 うん。

僕 前田くん、ザーっと携帯コーナーばあ見よーたろー。

向 うん、スマホ見よーた。

僕 あれ最新のやつよなー。予約販売の。

向 うん、もう最新じゃねーけどなー。すでに全然。

僕 あれから買うたん。

向 買うてねー。(少し笑って)

僕 うちなんかいまだにガラケーで。(笑って)

向 ほら。

向、ポケットから携帯を出して見せる。

僕 あ、僕もで。

僕、ポケットから携帯を出して見せる。

向 わあ！うちの方が前田くんより古い。

僕 ほんまじゃ。それ相当古いが。

向 終わつとるよなー。うちら。

僕 え？ 終わつとる。

向 高校生として終わつとるが。

向 恥ずかしゅーてみんなの前で出せんけえ、友達できんし。

父
いらん。

母の妹、また紙袋を机代わりのダンボールの上へ。平然と。

僕
きた。

向、送る。

母の妹、傘を立て掛けて、台上へ。

向
送るよ。ハイ。

向
きた。

母の妹、畳んだ赤い傘と高島屋の小紙袋を下げて歩いてきて、台下へ。

僕 向
うん。送って。

僕、赤外線を向ける。

僕
あー、交換、うん。

向、赤外線を向ける。

向 僕 向 僕 向 僕
あーそう、出せんよなー。
いまどき赤外線で。
なー、赤外線って。
みんなバンプとかやるがー。
そうーバンプできんよなー。
できんけえ、ハイ、交換。

⑩ 母の妹と父 2

父、別のダンボールの中から金の包みを取り、紙袋の中にポイと入れて、母の妹の方へ戻す。

母の妹 言うと思った。

母の妹、即座に差し戻す。

父、即座に差し戻す。

向と僕、ふたり並んで歩いていく。

母の妹 義兄さんにじゃないですかえ。

父と母の妹、幾度か紙袋を差し戻し合った後、押し合ったまま、

母の妹 姉に。式代です。

父 いらん。

母の妹 気持ちだけ。

父 汚ねー。(へらへらと)

母の妹 何かの足しに。

父 ならんならん。全然足りんけえいらん。

父、へらへらと手を引いて、部屋の端へ転がる。

母の妹 私のせいみたいに言わんでください。

父 言うてねーがー。誰のせいとか何も。

母の妹 ……そうじゃねえ。

やましいけえ私、そう聞こえるんですね。

母の妹、紙袋から手を引く。

母の妹 義兄さんだって、やましいけえ受け入れんのでしよう。

父 そらそうじゃろ。(へらへらと) やましいに決まっとうろ。

家やら嫁やらが流されよーるときに、町の料理屋でハモ食うとったやこ。

母の妹 ごめんなさい。

父 咲子ちゃんが謝らんでも。

母の妹 私が誘ったけえ。

父 たまたまじゃがー。

母の妹 じゃけど。

父 たまたまわしの勤め先の工場が町で、

たまたま咲子ちゃんの嫁ぎ先の病院が近くで、

たまたま大雨が降って、

たまたまバツタリ会って、

たまたまはも福がそけーあって…。

母の妹 最後おかしいですよね。

父 や、たまたま咲子ちゃんのはも福行ったことあって。

母の妹 たまたま優待券持っとして。

父 たまたまはも福が絶品ハモづくしフェアで。

母の妹 たまたま夕飯時で。

父 たまたまふたりでハモ食べて。閉店までそけーおって…。

あれ、やっぱ最後おかしいのうー。

母の妹 おかしいですよね。

父 うめーうめーゆうてハモ食うて。雨の音も聞こえんで。

母の妹、そろりと父の隣へ身を寄せながら、小さく、

母の妹 でも、ほんと、おいしかったですね。ハモ。

母の妹、少し微笑んで言う。

父 咲子ちゃん。

母の妹 口が裂けても人に言えんですね。

父 今もう裂けたが。

裂けてペロが出とる。よだれが垂れとる。

母の妹 絶品ハモづくしコース。

ハモの白子豆腐。

父 ハモの薄造り。

母の妹 ハモの天ぷら。

父 ハモの押寿司。

母の妹 ハモ落とし。

父 ハモざく。

母の妹 ハモしゃぶ。

父・母の妹 アイスクリーム。

二人、固唾をのんで、見つめ合う。

母の妹 義兄さん。

父 ん。

母の妹 あんとき私、まさかあんなことなるとは思いもよらんかったです。

父 わしも全然思いもよらんかった。

誰あーれも思うとらんかったじゃろう。

だって晴れの国で。災害がねーのが自慢の県で。天に愛された街で。

母の妹 ほんなら天のせいですね。

父 天。

母の妹 天から雨が降ってこうなって。

天の神様の言う通りでここがこうなって。

誰にしよーうかなで姉がこうなって。私らがこうなって。

たまたま。たまたまよね。

父 咲子ちゃん。

母の妹 言うたがあ、さつき自分がたまたまじゃって。

父 あーまー。

母の妹 じゃけえ義兄さん、もうやましいとか忘れましょう。

天に愛された街じゃけど、きつともう、天の愛は終わったんよ。

母の妹、立ち上がって、高島屋の紙袋を手取る。

母の妹　ちゃんとお別れして、弔いましょう。

母の妹、父の前に紙袋を差し出す。

母の妹　きれいに見送って。(紙袋を差し出したまま)

父　見送るーいつでも、流されたところ見てねーし。流れ着いたもん見てねーし。今も普通ーにそけーおる気する。

母の妹　言うどれんのですよ。ね。早よう。人からいろいろ言われる前に。

父　人。

母の妹　段取りは私が手伝いますけえ。

うちの病院でようしてくれとる葬儀社さんもおります。
齋場もすぐにどこなとええように

父、眼前の紙袋を取る。

母の妹　あ、

父、立ち上がって、高島屋の紙袋を傘にかける。

母の妹　卑怯です。そんなの。

父　どっちが。

母の妹、じりじりと押し出されるように台下へ。

父　な、咲子ちゃん。この家、まだにおいする？

母の妹　します。嫌なにおい。うっすらずーと。腐った獣の。

父　ほんならもうこけー来んでええが。

母の妹　だって、

郵便配達　すいませーん。

母の妹、傘と紙袋を手にする。

⑫ 郵便配達と父 2

郵便配達が歩いてくる。封筒を手にして。

郵便配達、降ってなくても合羽を着ている。

父 おー、こいちゃん。今日はいつも通りの時間じゃなー。

郵便配達 どうもー、え、

母の妹、郵便配達に高島屋の紙袋を渡して、

母の妹 これ、お願いします。

郵便配達 え、え？ あの？！

母の妹、足早に去る。

郵便配達 えー、何ですかこれー…？

郵便配達、父に差し出す。

父 な、こいちゃん揚げもん好き？

郵便配達 え、揚げもん？ まー好きですよ。

父 良かった。あげらあー。

郵便配達 いやいいです。

父 えーけええーけえ。うちにあってもどうせいらんけえ。

郵便配達 いやいやいいです。

父 まーまーまー。

郵便配達 だってなんかすごいお願いしますって。

そんなもらえないですよ。

郵便配達、紙袋を父に渡す。

父 うあー、重てー…。

父、紙袋を机代わりのダンボールの上にポイと置く。

郵便配達、封筒とボールペンを差し出す。

郵便配達 えーつとはい、前田佑ゆうさん宛に簡易書留ですんで。

父 書留？わしに？

郵便配達 B Z P A R T Y。(封筒を指して)

父 またB Z P A R T Y。何で？

郵便配達 さあー、僕に聞かれましても。

父 これも前に頼んどったもんかのー。

郵便配達 重要って書いてますよ。(封筒を指して)

父 今笑ったろ。

郵便配達 いえ笑ってないです。

父 笑つとるが。

郵便配達 だって重要って、B Zが。

父 何じゃB Z、重要って。

父、サインしてボールペンと封筒を返す。

郵便配達 はい、どうもー。

郵便配達、伝票を切り、封筒を渡して急ぎがちに去る。

郵便配達 じゃ失礼しますー。

父 おうー。

父、封を破る。

父 …マジかー。

父、封筒の中身を取り出す。

父 B Z L I V E , G Y M 市民会館大ホール。入場引換チケット。…2枚。

…行けりやーせんのに。

アイツ、ホンツマやっちもねー！。

父、封筒を机代わりのダンボールの上にポイと置く。

父 なんもかんも、いらんもんばあーじゃ。

⑬ 先生と向と僕 3

またB Z Tシャツの母が歩いて出る。僕の箸を手にしたままで。

母、さつきの曲の二番を口ずさむ。(それっぽい架空の曲の二番でもいいで

す) 台下をとぼとぼうろうろと。

母 ♪痛いことー 気持ちいいことー そーれはみんなー 人ーそれぞれで y e a h

↓

歌の中で、

父、台下へ歩いて行く。とぼとぼうろうろと。

入れ替わりに先生、台上へ。空を指して、

先生 予、もの^{われ}の心を知れりしより、四十^{よそぢ}あまりの春秋^{しゅんしゅう}をおくれる間に世の不思議を

見る事、ややたびくになりぬ。

向と僕、台上へ。

僕 私が物心ついてから、四十年あまりの年月を過ごした間に、この世の思いもよら

ない不思議な出来事を見ることがだんだん増えてきた。

川。

父、川を見ている。流れに沿って歩いて。

母、川向うにいる。流れに沿って歩いて。

先生 えー鴨長明は、その生涯の中で、ありえない程さまざまの天変地異を見ます。

そして、その様子を方丈記前半で克明に記述しています。

書かれた順に挙げてー、

向 大火事、

僕 竜巻、

向 遷都、

僕 旱魃、

向 台風、

僕 洪水、

向 飢饉、

僕 疫病、

向 大地震。

母 ♪はじけるような笑ー顔のー 向こう側をー 見たーいよー

自治会長と婦人会長、歩いてくる。とぼとぼうろろと。

婦人会長、高島屋の紙袋を下っている。

母、二番を歌い終えて、川の流れに沿って歩いて去る。

先生 家がなくなって、都が突然変わり、人が故郷を捨て、逃げ惑い、災害に倒れて死んで、道や川原に何万もの死骸が並ぶ様子を、まるで被災地から報告するルポライターのように鴨長明はつぶさに記しています。

自治会長と婦人会長、川を歩きながら、つぶやく。

自治会長 一夜のうちに、塵灰ちんくわいとなりにき。

婦人会長 遠き家は煙にむせび、近きあたりはひたすら焰ほのほを地に吹き付けたたり。

自治会長 いはんや、家のうちに資材、数をつくして空にあり、

婦人会長 軒を争ひし人のすまい、日を経へつつ荒れゆく。

自治会長 道のほとりに飢え死ぬるものたぐひ、数も知らず。

婦人会長 山はくづれて、河を埋うづみ、海は傾かたむきて、陸地くがちをひたせり。

自治会長 地の動き、家のやぶる音、雷いかずちにことならず。

先生 はい、そしてー（空をさして）ここ、

父、川の流れを戻って家の方へと歩いていく。

僕 すべて、世の中のありにくく、わが身と栖の、はかなく、あだなるさま、またかくのごとし。

先生 すべて世の中は生きづらく、家など持っていたって、小さな幸せにしがみついていたって、天変地異の前ではひとたまりもないのだからと、鴨長明は方丈記後半で、自らが移り住んだ、山奥の方丈の庵いおりでの暮らしを通じて、切々とつづります。

自治会長 佑ちゃん。

婦人会長 佑ちゃん。

自治会長 何しよーん。

父 あー、おうー。

父、台上へ。

先生と向と僕、台下へ。

⑭ 自治会長と婦人会長と父

婦人会長 何見よーたん。

父 何とはなしに川見よーた。

自治会長と婦人会長、台上へ。

自治会長 わしらーも見てきよーたんよ。何とはなしに、ぐるーつと回って。

父 おー、そうなん。

婦人会長 私は何とはなしじゃーねえんよ。ペル探しよーんで。まだ。

父 あーペルなー。見つからんなー。

婦人会長 うん、見つからなかったけど、ほら。

婦人会長、ポケットから卵を一つ差し出す。

父 あ、卵。

自治会長 ほら。ほら。ほら。ほら。

自治会長、ポケットから卵を四つぐらい差し出す。

父 おー、でーれー大漁。

自治会長 その裏の草んどこ。

婦人会長 ペルの小屋のあったとこ。

父 わしも見つけたんで。このへんで何個か。何の卵か知らんけど。

婦人会長 これ、鴨じゃろ。

父 え、鴨。

婦人会長 私が子供の頃たまーに川のへんにおったんよー。

父 そうなん。わしゃー知らんわー。小せえ頃から見たことねー。

自治会長 わしもねー。

婦人会長 じゃろー。もう何十年見んかったけどなあー。

父 川の決壊で流れが変わってしもうたけえ、こけー戻ってきたんかなあー、鴨。

父 おかしーのう。全然見かけんけどなー、鴨。

婦人会長 おるんじゃろ。たぶんどつか。産み落としたもんがあるーゆーことは。

父 これもろうてえーかのー、全部。

婦人会長 ええよええよー。

自治会長 何すん。

父 卵かけごはん。

自治会長と婦人会長、少し笑って、卵を渡す。

婦人会長 いやいよ困つとんじゃなー。はい。

自治会長 はい。

父、卵を受け取る。

婦人会長 はい。これも。

婦人会長、高島屋の紙袋を差し出す。

父 げ、何これ。

婦人会長 差入れ。おにぎり。ただの塩むすびじゃけど。

父 あーホンマー、ありがとう。

父、紙袋を受け取って、机代わりのダンボールの上に置く。

婦人会長 なー佑ちゃん。

父 ん？

婦人会長 アンタ、見舞金の申請しとらんのじゃって？

父 あーまー。

父、手の中の卵をダンボールの上に一つ一つ丁寧に並べながら。

婦人会長 何でせんのか。

父 何でって、まー別にええかなーって。

婦人会長 ええってアンタ、県と市とどっちも出るんで。

父 へー。

婦人会長 へーって、アンタとは家の全壊・流失分と、品子ちゃんの死亡・行方不明者分と、両方もらえよう。

父 へー。もろうてもなー。

婦人会長 ねーよりかだいぶ違うが。

父 ねーならねーでえーが。

婦人会長 ようねーわ。背に腹は変えれんで？

父 なーんかなー、わし正直もうなーんもいらんなーって思よーんよ。ちよつとちよつと手に入れるぐれーなら、なーんもねー方がスッキリするがー。

婦人会長 スッキリってアンタ、ずーつとこねーな状態で、こけー住むわけいかんじやろう。

父 や、住むけど。こけー。

婦人会長 立ち行かんで。信ちゃんもおるんじやし。

父 信はまー卒業したらどっか出て行くじやろう。

婦人会長 まだ1年以上もあるが。

父 1年しかねーが。何とかなろう。人間最低限の暮らしで。(へらへらと)

婦人会長 最低すぎらあ、これじゃあ。

父 そうかのー。(へらへらと)

婦人会長 電気もこん、ガスもこん、水道もこんってどこの国なら!?

父 まー意外とええ国で。(へらへらと)

婦人会長 良ちゃん! アンタ何黙って聞きよーん。

自治会長 あー、うん。

婦人会長 佑ちゃん、私ら話があつて来たんよ。

先生 言いねー! 良ちゃん。

自治会長 やー…。えーつと…。

先生と僕と向、台上へ。

先生 いきほいある者は食欲とんよくふかく、独身なるものは、人にかろめらる。

前田くん。

僕 権力のある者は欲がふかく、何も持たない者は、人に軽く扱われる。

先生 財たからあれば、おそれ多く、貧しければ、うらみ切せちなり。

向さん。

向 財産があれば、失う不安も大きく、貧しければ、人をうらむ心が強まる。

先生 人を頼たのめば、身他の有いなり。

僕 人に頼りすぎると、自分が自分のものでなくなって、その人に人生を握られてしまふ。
まう。

先生 人をはぐくめば、心、恩愛おんないにつかはる。

向 人の世話を焼きすぎると、その人への愛情にひかれて、心の自由を保てなくなる。

先生 えー、人が生きていく中で、金に左右されて心を奪われてしまうことは、なんて
わずらわしく愚かしいことでしょうか。鴨長明は、それらいつさいを手放して、
一人ささやかに住まう道を選びます。

婦人会長 早よ言いねー、アンタ、元自治会長としてシャンと!

自治会長 うん、はい…。

自治会長、父の真正面に寄って座る。

向 前田くん。

僕 ん？

向 一緒に帰る。

僕 あー、うんー。

二人、ちよつと楽しげに台を降りていく。先生も台下へ。

父 …近い。

自治会長 うん。

父 良ちゃん？

自治会長 佑ちゃん。

父 はい。

自治会長 一緒に住も。

父 は？

婦人会長 何言よーん！？

自治会長 わしと一緒に住も。

父 何一緒につて。

婦人会長 そんな話じゃねかろう！良ちゃん。

自治会長 わし、町にレジデンス借りとる。

父 レジデンス？

自治会長 レジデンス三宅。3DK。築30年じゃけどまーまー広^{ひれ}え。

佑ちゃんと信の部屋ぐれーはある。

父 いやいや、

自治会長 一緒に住も。家賃やこいらん。信の高校もここより近え。

父 やーだって、利^{りえこ}栄子さんと良^{りょうや}哉と利^{りな}菜ちゃんもおるが。

自治会長 かまわんけえ。

父 利菜ちゃんまだ小せえし、利栄子さんも大変じゃが。

自治会長 利栄子、良哉と利菜連れて実家帰った。

父 あ、え、そ、そーなん。

婦人会長 そうなん！？

自治会長　じゃけわしと住も。

婦人会長　あー。

自治会長　おっつと一緒に。な、ここ出て。

自治会長、父の手をとる。

父　や、良ちゃん、離して。

自治会長　嫌。

婦人会長　住んじやられえ、佑ちゃん。

父　アヤちゃんまで。

婦人会長　な、ここ出て。

婦人会長、父の手をとる。

父　おいおいおいおい。いやいやいや。なー！。

父、手をひく。そろそろと。

父　わしやーここでええわ。親父から引き継いだ家じゃし。

ここで足りとるけえ。

婦人会長　ここから出て行ってほしいんよ。…要は。佑ちゃん。

父　…え。

自治会長　…アヤちゃん。

婦人会長　察してほしいんよ。アンタとこだけーいうわけにいかんじやろう。

父　…何それ。

婦人会長　足並ーいうもんがあるろう。

父　…何の足並。

自治会長　…解散集落じゃけえな。もうここは。

婦人会長　よう思うとらんももおるんよ。

良ちゃんや私んどこへいろいろ言うてくる人もあるん。

みんな泣く泣くここを離れたけえ、心残りもあるがあ、どうしても。

ひっかかるがあ、どうしても。あそこ一軒だけ逃れてーって。

父 そんな言われても。

婦人会長 解散式るとき、自治会の積立金の配分も済んだろう。

父 集落で管理しとったあっちの林の木も全部切って、売り上げも皆で分けたろう。

父 断ったが。うちは。

婦人会長 そこらーが足並ーゆうんじやが。

父 足並足並ばあ。

婦人会長 ね、佑ちゃん、よーう考えて、そのあたり、汲んでほしいんよ。

父 汲んでって。

婦人会長 良ちゃんとのレジデンスがいけんのんなら、親戚やらアテがあろう。

父 アテやこねー。

婦人会長 …さつき私ら、下で会おうたんよ。…神崎病院の奥さん。

父 …それが何。

婦人会長 山道さんどうの残つとるギリツギリんとこに白しろえーでつけえーベントツ停めて。

深々とおじぎして、過ぎていった。

父 …へー。だから何。

婦人会長 近頃こけーよう来とろう。

父 …何が言いてえん。

婦人会長 あそこの病院長、次の市長選に出るんじやろ。

父 …え、何それ。

婦人会長 アンタ知らんのん!?

父 知らん、全然そんなもん。

婦人会長 あの奥さん、あちこち頭下げて回つとられるで。

父 え、じゃけ何。

婦人会長 ようしてもらえるじゃねーん。家やら仕事やら。

市長になるうかーいう程の院長先生じゃけ、いろいろツテもあるう。

はからってくれよう。

父 何言よーん。そんなもん関係ねーし、うちとは。

婦人会長 アンタのため思うて言よーんよ。

父 関係ねーが! …アンタらーとも。もう今は。

婦人会長 …じゃけど…。

自治会長 …。

沈黙。

自治会長　：佑ちゃん。何の音？

父　　ん？

自治会長　今なんか、ガサガサって。このすぐ下。床下。

父　　え、音？

3人　　：あ。

婦人会長　した。

自治会長　ほら。

父　　何じゃろ。

婦人会長　ペル。ペルじゃ。ペル！

父　　えー。

3人、台下へ。半分に断裂した基礎の中をのぞく。

3人　　ペルー。

自治会長　くせー、なんか。

父　　ホンマじゃな。くせー。こん中かー。

婦人会長　ペルーー。

自治会長　薄暗あて見えん。

婦人会長　おる！　あっこ、目が光つとる。

父　　ホンマじゃ。

婦人会長　ペルーー。あんた生きとったん！

ペル、おーいーで。ほら！

婦人会長、手を入れて呼ぶ。

父　　あ、違う。あれ：蛇じゃ。

婦人会長　嫌！（手を引く）

自治会長　蛇？

父　　ほら、くねくねと胴体が動いとる。でっけー蛇。

向と僕、手をつないで歩いてくる。なんかいちやついて笑って。夕刻。

僕 1 2 3 4 5 6 7 !

向 嫌 !

僕 あー ! ハハハ、

向 セーフ ! キヤハハ、

自治会長と婦人会長、歩いて去る。

父、床下の蛇をしばらく見ている。

⑮ 向と僕 3

僕 1 2 3 !

向 あー !

僕 1 2 3 4 !

向 あー !

向と僕、下につないだ手のままで、指相撲している。バカみたいに。

僕 1 2 3 4 5 6 7 8 9 !

向 あー ! キヤハハ、

僕 あー ! ハハハ

向 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10。勝ちー！。

僕 うー！

向 弱 ! 前田くん弱っ ! うちばあ勝つとるうううー !

僕 何だとおおおー ! ハハハハハハハ (すぐく力込めて握る)

向 痛あああー ! キヤハハハハハ

僕 折れる折れる ! ギブギブ ! 離して ! はーなーしーて !

向 前田くん !

父、台上に戻り、またゴロリと横になる。

僕、手を離さず、

僕 な、向さん。

向 もう何い！ 前田くん。

僕 あの、ぼ、僕ら、つつ、付き合う？

向 へ、へ！？ 何言よーん？ いきなり。

僕 あゴメン、ゴメンゴメンゴメン。

向 付き合つとるが。全然今。

僕 え、あ、そ、そうなん！？ ゴメンあれ、いつ？ いつ切替？

向 切替？ 意味わからん。結構前から。

僕 そうなん！？ マジで！？ 何で僕なん？

向 へ？ 何なんいちいち。細か。

僕 や、クラスも違うし、何でかなーって。

向 何でって、バカじゃけえ。

僕 え、え？

僕、手を離す。

向 他におらんけえ。

僕 同じ補修受けて、うちと同じぐれーバカじゃけえ。

僕 あ、そ、そっか。

向 うちと同じぐれー貧乏じゃし。

僕 そ、そーなん。

向 うちと同じぐれー寄り道ばあしよーるし。

僕 寄り道？

向 ホントいうとうち、ずーっと毎日見よーたんよ。学校終わって帰り道。

僕 ケーズデンキよりもずっと前から。

僕 え、え、マジで？ そうなん？

向 キモいとか思わんでよ。

僕 ゴメンちよっと思つた。

向 ストーカー入つてるとか、

僕 だいぶ思つた。

向 違う、なんか、なんでじゃろ、前田くん、家の方向全然逆のに、うちが歩くル

トとそっくり同じじゃったんよ。

一人で。行くアテもなくて。しょーもねーとこばっかし選んで。ゲオ寄ったり、ダイソー寄ったり、SHOT寄ったり。

ブックオフ寄ったり、デオデオ寄ったり、マルナカ寄ったり。

何も買わんとただ歩いて。

ただ店の新商品見て歩いて。

ずっと歩いて、うろろろして、たいして何ーんもせんと意味なく日が暮れて、夜になって。毎日。

うん、毎日。

前田くん、いっつもなかなか家帰らんのじゃな〜って思よーた。

帰らんでええん？ 向さんも。

ええんよ。うちは。

暗うなってきたで。

全然ええよ。家帰ったってつまらんし。

つまらんよな〜。

うち、前田くんよりはマシじゃって思ったかったんよ。

…え、どういう意味？

さっきの「何で僕なん」の答え。

何で、ゴメン、意味わからん。

負け要素多いけえ。前田くんも、うちも。

負け…。

勝ちたいんよ、うち。勝ち誇って、優越感感じたい。いっぺんぐらい。

向さん。

うちが底辺じゃなくてあなたが底辺ですみたいに。心の中で憐れみたい。憐れんで、よしよしってしてみたい。

短い間。

じゃしてみれば。

僕

向

僕

僕

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向

僕

向、僕の額に手を伸ばす。
間。

向 全然マシじゃない。

僕、額の向の手の上に手を置いて押さえて、

僕 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10。勝った。

自治会長 佑ちゃん。

自治会長、ふらりと台下へ。夕暮。

向 ちよ、前田くん。キャハハハハ。

僕、向の手を引いて歩いていく。バカみたいに、楽しみに。

⑩ 自治会長と父

父、身を起して、

父 あれ、良ちゃん、まだおったん。

自治会長 おうー、戻った。ちよつと忘れ物。

父 そーか。ま上がられー。

自治会長 えーわ。すぐじゃし。

父 おうー。

自治会長 佑ちゃん、わし待つとるけえ。気が変わったらいつでも。

父 あーまー100年後ぐれーかのー。

自治会長 引っ越し手伝うけえ。職場の軽トラ借りちやるけえ。

父 やーねーわー。男3人でレジデンスで。気持ち悪いーわ。

自治会長 何で。小せえころ、用もねーのにこころーの家に泊り合うて、一緒に風呂入ったが。

父 レジデンスで一緒に風呂入るわけにいまーが。もうええおっさんのに。

自治会長 おっさんでも、バスクリン入れて待つとる。

父 何なバスクリンで。

自治会長 何なんじゃろ。のうー佑ちゃん。

父 何な。

自治会長 品子さんって、泳ぎうめー？

父 泳ぎ？ 何な急に。

自治会長 うめーんかなーって。

父 さあー、実家は海寄りじゃったけど。

自治会長 濁流を泳いで下れる？ 三途の川を這い上がれる？

父 何なそれ。

自治会長 わし、見たんよ。一昨日の夜。いや、見間違いかもしれんけど。

父 何。

自治会長 品子さん。いや、品子さんっぽい女。

レジデンス三宅の近く。誰も住んでなさそうな木造ボロアパート。

わしが自販機でビール買うとったら、

2Fのカーテン、薄黄色のカーテン、中からふわーと風が吹いて、巻き上がって、一瞬見えた。

品さんが座った。扇風機が強風で回った。

後に男が立ってしまった。どっかで見たような顔の。思い出せん。

後の男が扇風機消した。で、カーテンが閉じた。

暴風。

雨。濁流。

濁流の中を、合羽の郵便配達が母の手を引いて、下っていく。

普通に、何か会話しながら。濁流で聞こえない。

父、台上に立ってそれを見ている。

郵便配達と母、通り過ぎて、見えなくなる。

濁流、通り過ぎる。

入れ替わりに僕、紺の傘を手に戻ってくる。夜。

⑰ 父と僕 4

僕、ダンボールの中から懐中電灯を取り出して、つけて置く。

父、ゴロリと寝ている。

静寂。

僕、机代わりのダンボールの上の物を見る。

2つの高島屋の紙袋を開けて中を見る。

父 遅えな。

僕 あー。

父 降っとな。

僕 降ってねー。

父 めしは。

僕 食った。

父 どこで。

僕 どこでもえーが。

父 女子と？

僕 関係ねーが。

父 女子とかー。

僕 違うわ。

父 食ったかー。

僕 うるせー。

父、横寝のまま、

父 どーすん。卵でーれーあるで。

僕 いらんて。

父 メンチカツも。

僕 いらん。

父 おにぎりも。

僕 いらん。

父 いらんよなー。

僕 分配金て何。

父 何それ。

僕 おにぎりの下。

父 知らん。見てねー。

僕、高島屋の紙袋から封筒を取り出す。分配金と書かれてある。
封筒の中身を取り出す。ほんの10万程。

父 あー。金ばあーあるなー。(へらへらと)

僕、もう一つの高島屋の紙袋から、包みを取り出す。

包みの中身を取り出す。2束。200万。

父 すげーなー。金だらけじゃー。(へらへらと。以降も)

僕 引っ越そうや。これで。

父 何なおめーまで。しっけーな。

僕 みんな引っ越していったが。

父 どけー引っ越すんな。

僕 どっか明るい国。新しい家建てて。

父 足りまー。これじゃあー。

僕 足りようー。余裕じゃが。オカンの生命保険と家の災害保険も出よう。

父 死んでねかったら出まー。壊れてねかったら出まーが。

僕 死んどるわ。壊れとるわ。もうこれ以上ねーぐれー崩壊しとるわ。

父 気のせー気のせー。

僕 壊れすぎていかれとらあー。

父 正気正気。(へらへらと)

父、起き上がる。

僕、包みの袋に金を全部入れる。

僕 な、オトン、逃げよう。

父 逃げるって。(へらへらと)

僕 ゲリラがくるが。どうせまたすぐ。

父 何、戦争のゲリラみてーに。

僕 次ゲリラがきたら、こんな家、秒殺で流されらあ！

父 大丈夫。

父、僕の両肩に手を添える。ゆっくりと。

父
…信。

大丈夫じゃけ。安心せられー。

僕
…は。

父
守られとんよ。この家は。神さんに。

僕
いかれとる。何言よーん。

僕、父の手を払う。

父
蛇がおるんで、床下に。でつけー蛇。今、すぐこの下。

僕
は、蛇…。

父
そんなん、知つとらあー。全然、小せー時から。

僕
そうなん。おめえ知つとったん。

父
ありやー絶対、蛇身弁財天の化身じゃる。

僕
何じゃそれ。

父
蛇神へびがみさんに守られたけえ、この家だけ半分流れ残ったんじゃ。

僕
気持ち悪いわりこと言うなーよん。

父
ううん、縁起がえーことじゃが。

僕
どこが。あねーなもん、ただの害獣じゃが。

父
庭で遊びよーた子供の頃、夏休み、石で叩いて通風口外して、

僕
覗いて見たんよ。

父
蛇はでつけー口開けて、床下で鼠食うとった。

僕
いくつも鼠の死骸があつて、たまらんくせーにおいがして。

父
何本も抜け殻がぶら下がとった。

僕
おー、抜け殻は金運じゃが。ほら。(高島屋の紙袋)

父
気味悪いわり。

僕
守られとるわけねかろうが。こんな家！

僕、立ち上がって、ふらーと台を降りる。

父 だけー行くん。

僕 どこでもえかろう。

父 なー信。

僕 もう何な！

父 わし、えーこと思いついた。

僕 ほんじゃおめーだけ、町に住むか。

父 …町。

僕 牛島の良ちゃんがレジデンス借りとる。

父 おめーそけー住め。

僕 …何で。

父 一人で広^{ひれ}えって。

僕 何で僕が、自治会長と。

父 おめーの高校も近え。

僕 すぐにでも来てええって。荷物運んじやるって。

間。

僕、ふらーと戻ってきて、座る。

父 行かんのん？

間。

僕、コロリと丸まって横になる。背を向けて。

父 おい。(小さく)

沈黙。

父 おーい。(小さく)

父、僕を見ている。

先生、台上へ。

先生 世にしたがへば、身くるし。したがはねば、狂^{きやう}せるに似たり。
僕 世間の常識に従うと、窮屈で苦しくなってくる。

先生 従わないと、狂った人間だと思われてしまう。(横になったままつぶやく)
いづれの所を占めて、いかなる業^{わざ}をしてか、しばしもこの身を宿し、たまゆらも心を休むべき。

僕 一体どんな土地に住んで、どんな仕事をすれば、少しの間でも心安らかに過ごせるのだろうか。

先生 いや、この無常で世知辛い世の中には、そんな安らげる土地や仕事なんてないのだ。

父 したがへば身くるし。したがはねば狂^{きやう}せるに似たり。

父、懐中電灯を消す。

雨。朝。

僕、ズボンの両ポケットに手をつっこんで、背中を丸めて歩いて行く。
紺の傘を置いたまま。

郵便配達 すいませーん。

郵便配達、泥で汚れた合羽を着て、歩いてくる。

⑱ 郵便配達と父 3

父、身を起して、

父 おー、こいちゃん。

郵便配達 どうもー。

父 どしたんー、今日ではーれー早えが。

郵便配達 この雨なんでルート変更です。

父 あー。

郵便配達 どうせまた大幅に遅れるんで、逆から回ってみようかと。

父 あーそー。

郵便配達 大降りになっちゃうと正直ここまで歩いて登ってくんの大変なんですよねー。

父
泥がハンパなくて。
あーじゃなー。

郵便配達、雨よけの袋からハガキを取り出して、

郵便配達 はい。郵便です。(渡す)

父 何じゃ、今日はBZ PARTYじゃねーんか。

郵便配達 残念ながらDMですねー。

父 熟成にんにく卵黄スペシャル。スペシャルって何が。

父、DMをダンボールの中にポイと捨てる。

郵便配達 ねー、ですよねー。じゃ、失礼しまーす。(行きかけて)

父 あ待って、こいちゃん。

郵便配達 はい？

父 扇風機、ちゃんと生きとる？

郵便配達 あ、はい、生きてます。

父 微妙に心配しよーたんよ。もう古いーけえ。

郵便配達 全然生きてます。

父 快適？

郵便配達 超快適です。

父 そっか、なら良かった。

郵便配達 ホントありがとうございます。じゃ、失礼しまーす。(行きかけて)

父 待って待って。

郵便配達 何すか？

父 こいちゃん、BZ好き？

郵便配達 やー、そんな別に、

父 BZクイズ。

郵便配達 え、え、

父 第1問。BZの稲葉じゃない方の苗字は何？

郵便配達 や、あの、

父 ビ、ビ、ビ、

郵便配達 松本。

父 正解。では第2問、

郵便配達 や、前田さん、あの僕、

父 B Zの稲葉の実家は何化粧品店？

郵便配達 いや稲葉でしょ。

父 正解。挑戦者小石川^{こいしがわ}さん、さすがはよくご存知でした。

郵便配達 いやいや挑戦とか、もう僕、後が詰まってるんで、

父 スペシャルクイズ。

郵便配達 スペシャルって、

父 この問題に正解すると一挙に2ポイント獲得です。

郵便配達 獲得とか、もうホントいいんで前田さん、

父 B Zの稲葉のトレードマークは何パン？

郵便配達 短パン。

父 ですがー、その上に羽織っているのは何シャツ？

郵便配達 やー、ちよもうー、雨ん中何してんですかー、勘弁してくださいよー、

父 おーっと挑戦者悩んでいます。ピ、ピ、ピ、

郵便配達 ネルシャツ。

父 大正解。郵便配達員、小石川さん優勝です。おめでとうございます。

郵便配達 え何、微妙にうれしいですけど、何なんですか前田さんこれ。

父 かなりのB Zファンじゃねーか。こいちゃん。

郵便配達 いやいやそんなファンとか、

父 嘘嘘ー、でーれー詳しいが。

郵便配達 や常識でしょう、あんなのは。

父 おーファンの間では常識か。

郵便配達 いやいやいや、もう僕行きますよー、遅れちゃうんで、

父 やー待つて待つて。

グランドチャンピオンに輝いた小石川さんには豪華商品をさしあげます。

父、ダンボールの上の封筒を取って差し出す。

父 はい。

郵便配達 え。

父 重要。(指して)

郵便配達 こないだの。

父 (中身を出して) チケット。B Z L I V E・G Y M 先行引換券。

しかもペアで。

郵便配達 えー。

父 あげらあ。

郵便配達 やでも、

父 うちにあってもどうせ使わんし。

郵便配達 ほんとですか。

父 今ちよつと喜んだろ。

郵便配達 まーちよつと。

父 ほらほらやっぱりB Z ファンじゃねーか。

郵便配達 やもらえらるとなると。

父 かなりええ席じゃと思うで。なんせB Z P A R T Yの会員じゃけえな。

郵便配達 いいんですか。

父 別にえーよー、全然ー。予約した本人こけーおらんし。

行きてー人が行くべきじゃが。

郵便配達 わーありがとうございます。

ほんとすいませんー、いろいろもらってばかり。

父 えーよ。いろいろあげらあー。何だつてあげらあー。

ハイ。

父、チケットを渡す。

郵便配達、中身を出して、

郵便配達 おー、B Zが市民会館に？

父 近えんじゃねーん。こいちゃん家町じゃろ。

郵便配達 まー近いっちゃ近いですねー。

郵便配達、ちよつと嬉しそうに封筒をポケットへ入れながら、

郵便配達

あれ、僕前田さんに家の話とかしましたっけ？

父　　すーごいボロアパート。家電とかまだ全然揃ってない。
郵便配達　あー、しましたっけ。

父　　誰も住んでなさそうな木造ボロアパート。

郵便配達　正解。

父　　下に酒の自販がある。

郵便配達　正解。え、ちよ、何でわかるんですか。

父　　透視。

郵便配達　嘘でしょ。

父　　マジでマジで。

父、目を閉じて、手をかざす。

父　　2階。

郵便配達　え、正解。

父　　カーテンの色は薄黄色。

郵便配達　え、え、正解。

父　　女と住んでる。

郵便配達　：ちよ、何で、

父　　そのチケットで一緒に行こうと思ってる。

郵便配達　：正解。

父　　中肉中背。髪はこんくらい。ストレート。目は二重で丸い。

郵便配達　：は、ちよ、前田さん何で？

父　　いえーい大正解。わし優勝ー、グランドチャンピオン。

父、高くガッツポーズ。

郵便配達　や、待って。待って待って待って。：ね、前田さん、真剣何ですか。

父　　じゃけえ透視能力。

郵便配達　ないない。見たんでしょう。たまたま。

父　　見てねー。一切。

郵便配達　ありえないし。

父　　ありえんよな。

なーこいちゃん。教えてくれー。どうにも透視できんことがある。
あの日もこいちゃん、雨で遅れて配達遅うなったんじゃねーん。

郵便配達 あの日？

父 川が決壊した日。

郵便配達 あー、遅れました。結構夜。ぎりぎりあの少し前。

原付じゃなかったら終わってました。

父 うちのヤツおったる。

郵便配達 まだあそこに郵便受けがあったんで、僕、ボイと中に入れました。

父 嘘、アイツ、昔っから郵便配達の前付の音したら外覗くけえ。そけーあった台所の勝手口開けて。

郵便配達 開あきました。「雨ん中ご苦労さまですー」って。エプロンして。

父 中肉中背。髪はこんくらい。ストレート。目は二重で丸い。

郵便配達 え、ちよ、(半笑い)前田さん、それって何が言いたいんですか。

父 助けてくれたんじやろ。こいちゃん。

郵便配達 え……、助けて……、……ないです。

父 嘘ばあ。嘘じやろ。助けたろ！？

父、郵便配達の前付を掴んで、雨の中、

郵便配達 ちよ、何すか。

父 アイツを原付の後に乗せて、山道を降りて、崩れる土砂を避けて、
決壊する川から逃げて、

郵便配達 ないです。

父 逃げて、町まで走って、ボロアパートに連れて行って、

郵便配達 ないですって。え、何、妄想ですか？

父 ええけえこいちゃん、全然許すけえ、言うてくれー！ 連れて行ったって。

郵便配達 意味わかんないです。全然ないです。助けてないって。

父、両手で新聞配達の前付を掴んで、締め上げる。

父 言うてくれーよん！ 生きとるって。今一緒に住んどるって。全然かまわん
けえ。なーこいちゃーん！

郵便配達 はああー……？

何言ってるんですかー！

郵便配達、父の手をのけて、軽く突き放す。

郵便配達 勘弁してくださいよー。(半笑い)

何それ。おたくの奥さんとかないですから。ないない。絶対ない！

父 何で！

父、郵便配達を台上に引き倒して押し付ける。

郵便配達 妻ですよ。僕の妻。

父 妻…。

郵便配達 中肉中背。髪はこんくらい。ストレート。目は二重で丸い。

父 何で！

郵便配達 二人で越して来ました。三ヶ月前。誰も住まないようなボロアパート。

移住してきました。家財道具捨てて、仕事捨てて、故郷を捨てて。こゝろ

そこは晴れの国だっていうから。

日本で一番災害がない町だっていうから。

移住したい県NO.1だっていうから。

だまされた！

こんなことになるとは思わなかった。

嘘ばっかり！

どこもかしこも雨ばかり！

父 何で！ こいちゃん！

郵便配達 前田さん、離してください。遅れます。次の配達行かないと。

僕、絶対首になりたくないんで。行かないと！

母の妹が歩いてくる。赤い傘をさして、高島屋の紙袋を下げて。

母の妹 ……義兄さん！

父 ……何で。

…また来たん。

父、力なく離す。

郵便配達、起き上がる。

ポケットから封筒を出し、母の妹に渡して、

郵便配達 これ、お願いします。

郵便配達、足早に歩いて去る。

⑱ 母の妹 3

間。

母の妹 ……。

母の妹、父に封筒を差し出す。

父、受け取る。

父 いつじゃったか、だいぶ前。

わし、品子に言うたんよ。

市民会館なんかにはBZが来るわけねーって。(へらへらと)

母の妹 市民会館？

父 そ。

父、封筒をポイとダンボールの上に投げる。

母の妹、高島屋の紙袋を差し出す。

母の妹 はい。

父 もうあふれとる。

父、机代わりのダンボールの上を見る。

母の妹、台上に置く。

父　ワイロじゃ。

母の妹　え。

父　聞いたで。

母の妹　そうですか。

父　すげーな。(へらへらと)

間。

母の妹、頭を下げる。

母の妹　どうか、

お願いします。

間。

父　そらーなー。

ちゃーんと片づけてーわなー。

穩便に。

水に流して。

母に妹、頭を下げたままにいる。

父、高島屋の紙袋を全部取って、台下の母の妹に持たせる。

父、母の妹の手をひいて歩く。

半分に断裂した基礎。

父　ここ。

足元。

においの根源。

傘をさしたままの母の妹、奥を覗く。

母の妹
蛇。

父
きれいじゃろ。

母の妹、口に手を当てる。

母の妹
あ。卵、食べてる。

父
あ。ホンマじゃ。

母の妹
すごい口。口が口じゃないみたい。

父
飲み込んだる。

母の妹
何の卵。

父
鴨。

先生と向と僕、台上へ。

⑳ 先生と向と僕 3

先生
すべて、あられぬ世を念じ過しつ、心を悩ませる事、三十余年なり。

前田くん。

僕
すべてにつけて、生きづらいこの世を、耐えて暮らしてきて、心を悩ませ続けた30年あまりだった。

母の妹、歩いて去る。

先生
その間、あひだをりくのたがひめに、おのづから、短き運をさとりぬ。

向さん。

向
その間、ことあるごとかけ違い、やることなすこと裏目に出て、自分が不運な運命であることを思い知らされた。

父、歩いて戻って、台上へ。

先生
えー、鴨長明はもともとは京都・下鴨神社のトップ神官の子で、いわゆる裕福な家庭のお坊ちやまでした。

しかも頭脳明晰、和歌の才能は拔群、琴や琵琶の腕も超一流で、将来を期待された輝かしい存在でした。

父、机代わりのダンボールの前に座る。

先生

しかし、18歳の時に父親が亡くなって以降は、転落していく一方でした。

父という強力なコネを失って、懂れていた神官にもなれず、ライバルに出し抜かれ、妻や子とも別れ、落ちぶれて、鴨長明は失意のどん底の人生を送ります。

父、ダンボールの上の封筒からチケット引換券の用紙を取り出して、おもむろに何か折り始める。ゆっくりと。

先生

源氏が滅び、平家が滅び、天変地異が相次ぐ激動の時代を生き、

そして、五十歳の春に出家して、俗世間とのかかわりを断ち、五十四歳で京都、日野の山奥に方丈の家を建てたのでした。

そしてー、ここ読んでー向さん。

向

その家の有様、よのつねにも似ず。

先生

前田くん訳してー。

僕

その家の有様は、世間一般のどの家にも似ていない。

向

広さはわずかに方丈、高さは七尺しちしゃくがうちなり。

僕

広さはわずかに一丈四方。高さは七尺にも満たない。

向

ほど狭せましといへども、夜臥す床ゆかあり、昼居る座あり。一身を宿すに、不足なし。

僕

手狭だとはいえ、夜に寝る床はあるし、昼に座る場所もある。

独り身で過ごすのに、不足はない。

先生

そしてー、ここ読んでー。

向

事を知り、世を知れれば、願はず、走らず。ただ、静かなるを望みとし、

僕

愁うれへ無きを楽しみとす。

僕

身の程を知り、世の現実を知ったので、もう何も願わず、むやみに頑張らない。

ただ静かであることを望み、憂いのない生活を楽しみにするばかりだ。

先生

そしてー、ここー。

向

仏の教えを給ふおもむきは、事に触れて執心なかれとなり。今、草庵を愛するも、とがとす。閑寂かんせきに着ちやくするも、障りなるべし。

僕 仏様の教えは、何ごとにも執着するなということだ。

だから今、この狭い家を愛するのも、罪である。静かな生活にこだわるのも、極楽往生の妨げなのだ。

先生 はい。こうして山奥で一人、鴨長明は、無常の悟りを求め、本当の幸福とは何かと見つめながら、五十七歳で方丈記を書き上げます。

僕 何ですか？

先生 え？

僕 何で書いたんですか？

何事にも執着せんとか言うて、わざわざ書いて残しとる。

向 ほんまじゃ。

僕 俺は何もねーから幸福ですとか、俺の家は狭くてこんなにいんですとか、負け惜しみみてーに。

向 であーれー執着しとるがー。恨みがましいがー。

先生 そう、そこですね。

一枚裏を返せば、無常を悟りきれない、ただの人間・鴨長明の証拠かもしれませぬね。方丈記は。

僕 黙って、自分で味わって、静かに暮らすだけでええのに。

先生 はい。

えー、そこは、望めば誰でも手に入れられそうなのに、多くの人は世のしがらみにひきずられて、手にすることのできない、

自由とあきらめの境地。

広さはわずかに方丈、高さは七尺しちしゃくがうちなり。

先生、台上の縁を歩きながら、

先生 えー、一丈とは約3.3 m。

ということは、その狭さは、前田くん。

僕 3.3 m × 3.3 m。

畳でいうと、

僕 四畳半。

先生 ちようど、ここと同じ狭さでした。

すべては、ほうじょうの、小さな世界でのことです。

雨。

父が折った引換券は舟に。

父ダンボールの端からゆっくりと滑らせて、反対端へ置く。

小さな此岸から彼岸へと、紙の舟がゆく。

先生、台下へ。

向と僕、台下へ。なんか楽しそうにちよつと駆け出す。

父、ゆっくりと立ち上がる。

① 父

父、肌着シャツを脱ぎ捨てる。

別のダンボールからBZTシャツの袋を取り、ビニールを破り捨てて、着る。袖をノースリーブ状にまくる。

ダンボールの中から箸を手にとり、マイクのように持って、とつとつと、

父

あ、あ、えー、みなさまー、本日は雨の中お集まりくださらず、誠にーありますがと、
うございます。(礼)

えーこのたびー、前田市、市長に立候補いたしました、前田です。(ちよつと挙手)

えー、わたくし私が市長に就任しましたあかつきにはー、

このー、前田市を活性化させず、インフラを整備せず、

前田市のさらなる人口増加を目指さず、市税収入を増やさず、

積極的に企業を誘致せず、法人税収入の増益に取り組まず、

政令指定都市を目指さず、権限・財源を拡大せず、

本当の意味で、市民の幸福な暮らしを見つめ、豊かな生活を目指す、

新しい町づくりを、ゼロからすすめたいと思います。

えー、そしてきつと、必ず、この前田市という新しい町が、明日への一步を踏み
出せると確信いたしております。

あー、それとー、市長給与の全額カットもお約束したいと思ひます。

(ちよつとガッツポーズ)

前田市選挙戦、大変きびしい中ではありますが、どうぞ私わたくし前田、前田への清き
一票を、心からー、お願い申し上げます。

えー、みなさま、沿道から、大きなご声援を頂かず、ありがとうございましたー。
(礼)

雨。

父、川の流を見ている。

間。

父、またコロリと床に寝る。

僕、ポケットに手を入れて歩いてくる。

② 向と僕 4

向、ピンクの傘をさして歩いてくる。

二人、なんかちよつと楽しげ。

向 前田くん！

ねーねー前田くん！

ん？ 何じゃ！？

もう！ 何であげた傘使わんの！？

ゴメン忘れた。ハハハハ

何で！？ 朝から降つとつたが。

けど忘れた。ハハハハ

何で！？ 意味ねーが！ もうびしょ濡れで。キャハハハ

なー、意味ねーよなー。ハハハハ

信じれんわ、もうー。

向、さしている傘を僕の上に。

僕、スツとその傘を持つ。

僕 な、向さん。

向 何、前田くん。

僕 家まで送るよ。

向 困る、遠いーけえ。

全然困らんよ。

歩いて帰れんよ。遠すぎて。

何で？ いけるよ。町の方じゃろ。

うん。町の方。隣の。

隣かー。そら遠いーな。

この川のずーつと下流。

下流かー。

でも送るよ。歩いてみよう。話しながら。

うん。じゃあ。

向のポケットからキラキラした電子音。

あ。

向、ポケットからスマホを取り出す。

あ。

向、スマホをスイスイと指で撫でる。

警報じゃって。大雨特別警報。(画面を僕に見せて)

これまでに経験したことがないような大雨になるところがあります。

最大級の警戒をしてください。じゃって。

そんなん教えてくれるん。

うん。アプリ。防災速報。

へー。すごいな。

でも誤報だらけで。夕べから何べんも鳴つとる。

へー。

変えたんじゃな。スマホに。

うん。ええじゃろー。最新式。(キラキラと見せる)

でえれー高かろー。

高かっ^たー。

僕 すごいなー。

向 バイトしたんよ。前田くんとメアド交換した後。

僕 へー。何のバイト。

向 散歩。

僕 散歩？ そんなバイトあるん。

向 うん。超楽。

僕 知らんおじさんと歩くだけ。ただずっと。

僕 え。

向 JKお散歩。手つなぐのはオプション。傘さすのもオプション。

僕 へー。そんなバイトしょーんじや。

向 初めてした。わりとバイト代えかった。

僕 ふーん。えーんかー。

向 遠足もあるんよ。

僕 遠足？

向 JK遠足。どっか遠くまで行くんじやって。電車とか乗って。

僕 すごいバイト代ええって。

向 へー。無常じやなー。(ちよつと笑って)

僕 無常かー？(ちよつと笑って)

向 なーんかー。新しい携帯ー。

僕 あー。

向 久しくとどまりたるためしなしじやなー。

僕 じやなー。

父、身を起こす。

向、スマホをスイスイと指で撫でて、なんかキラキラした音をさせて、

ポケットにしまう。

相合傘の向と僕、歩いていく。

② 向と僕 4

父 遅えなー。アイツ。

父、ダンボールの上の5つの卵を手取る。
台下に黒い傘をさした人がたくさん歩いてくる。

婦人会長（拡声器を手に）えー、さてー解散式のー宴もーたけなわですが、みなみなさまー、今この時もーどつかできつと待ちよーる前田の品子ちゃんに、集落みんなの声が届くよう呼びかけて、品子ちゃんの好きな歌で、今日の解散式を閉めたいと思いますー。お手元にお配りした紙をご覧のうえ、ご唱和ください。
いちーにのーさんーはい、

黒い傘の人ら ♪例えばー どうにかしてー 君の中ー a hー 入って行ってー
その目からー僕をーのーぞいたらーいーろんなこと ちよつとはわかるかも
ー

黒い傘の人ら、川へ向かって歌う。

歌の中で、父、台の端の、僕が投げた所から、外の川へ卵をポイと投げる。
一つまた一つと、全部。

すると、母がお盆にご飯と卵とみそ汁を乗せて歩いてくる。3人分。
父、振り返ってそれを見ている。

母、ダンボールの上に配膳する。箸も3人分。
そして、別のダンボールの中から、お椀を出す。

見つからなかった、卵を割る用のお椀。

扇風機を台上に上げる。スイッチを押す。

歌はどこかでもう終わっている。

母、待っている。

母
ペル、ペル。こっち来られー。

ペルが寄ってきて軒下に入ってくるかんじ。

母
よしよしよし。

母、台下のペルを撫でている。

母
ペルー。遅えなあー、みんな。

母、机代わりのダンボールに戻って座る。

母
どけー行つとんかなー。こんな雨ん中。

扇風機が回って首を振っている。

父、振り返って、ただずつと母を見ている。

黒い傘の人ら、歩いて去る。

相合傘の向と僕、歩いてくる。

② 向と僕 5

僕
遠いーな。えれー。

向
遠いーて言うたがー。だからー。

僕
下流つてもしかして、海の方まで？

向
海よりは手前。

僕
なー、向さん、あのさー。

向
んー、何ー？

僕
夏休み、何か予定ある？

向
何ーんもねー。バイトかなー。

僕
ほんじゃ、僕と一緒に行ってくれん？ 遠足。

僕、ズボンのポケットから、札束2束と万札10枚くらいを出す。

僕
これで。

向
はあ！？！？

僕
JK遠足。バイトして。

向
どしたん！？ 前田くん！ こんなに。

僕
もろうた。

向
もろうたって誰に！？

僕
ええけえ、行ってくれーよん。

向 だけー行くん。こんなに遠足。

僕 行きてーとどこでも。

向 えー？

僕 ここからどつか遠い国。だけー行ってみてー？ ふたりで。

向 ー、そうじゃなー。

僕 夢の国。

僕 飛行機乗って、リムジンバス乗って、ホテル泊まって。

向 夢の国？ そんなところあるん。

僕 あるよ。ここ。

向、ポケットからスマホを出してスイスイと指で撫でる。

動画を再生して僕に見せる。

向 鼠の国。

スマホから花火と拍手と歓声と電子声。

エレクトロカルパレード・ドリームライツの音楽冒頭、

紳士淑女・少年少女へと華やかなショウの始まりを英語で

呼びかけるイントロデュースがスマホから流れる。

エレクトロカルファンファーレの音楽の中で、

僕 あー。えーなー。鼠の王国。

向 そう、大陸と海。

僕 電気の行列。

向 大きい雷の山。

僕 小さな世界。

向 みんな、それぞれ、助け合う、小さな世界。

僕 行ってみてーなー。

僕 行ってみてーなー。

狭い家に、此岸と彼岸の父と母がいる。父立ち尽くしている。母、食べずに待たれた食卓のダンボールの前に座っている。

母 おかえり。

父 …え、

母 まあ、座られえ。

父 …ああ、

父、ダンボールの食卓に座る。

母 食べよ。

父 …おう。

父、食事に箸をつける。

発光する音楽とは逆らって、

一つまた一つと、辺りの灯が消えていく。

一つまた一つと、小さな世界が消滅するように。

そうして、暗い中に、スマホの小さな灯だけ。

小さな灯は、画面を見つめる向と僕の顔を照らしている。暫く。

そして、最後の世界も消滅するように、スマホ画面、暗転。

暗い中、エレクトロカルファンファーレが大音量で鳴っている。

※原文引用
|| 『方丈記』
鴨長明
角川文庫